

武並で習う恵那みそ

恵那の味・伝承講座の特別版「恵那みそ寒仕込み講座」が、2月4日、むつみマニファクトリー（武並町・柘植三津世代表）で開かれ、市内外から16人が参加しました。この講座は、恵那の大豆を使用し、添加物や防腐剤を使わない、昔ながらの手作りみその味と良さを広めることを目的に毎年開催し、ことしで19回目。この日は、講師から大豆の煮方や気温へ気遣い、分量などに注意することなど習った後、実際にみその仕込みを行いました。



▲みそを投げつけて空気抜きの作業をする受講生たち

受章者の功績をたたえる

2月8日、叙勲・褒章受章祝賀会が開かれました。受章されたのは、元県議会議長加藤利徳さん、上矢作病院名誉院長大島紀玖夫さん、元市南消防団長鈴木紀秀さん、元県保護司連盟理事千藤鈴雄さん、元市議会議長柘植成實さん、元瑞浪市教育委員会教育長近藤慎平さん、元中津川市立阿木小学校校長新田鉦三さん、市消防団長伊藤春正さんの8人。代表の加藤さんは「今後とも、さらにいっそう努力を重ね、地域社会に貢献していきたい」と述べられました。



▲受章者を代表してあいさつをする加藤利徳氏

立志の塔に将来を誓う



▲「立志の塔」の前で志を読み上げる稲葉萌恵さん

1月29日、山岡中学校で同校2年生49人が「立志式」を行いました。この式典は、昭和51年に同町で「教育の町」宣言が行われたことがきっかけ。14歳という判断能力や知識が養われ、将来に向けて希望を持つ年齢に、将来への志を誓う行事として毎年行われています。式典では、「立志の塔」の前で生徒を代表し、稲葉萌恵さんが「わたしの志」と題した作文を読み上げ「努力を惜しまず、心の強い人間になりたい」と、誓いました。

「かるた」に神経集中



▲神経をかるたに集中する小学生たち

2月1日、市民会館で市子ども会指導者連絡協議会（熊澤健会長）主催による「かるた取り大会」が開かれ、市内の小中学生146人が参加しました。

これは、大会を通して日本古来の伝統文化に親しむとともに、地域の子ども会の活性化を図ることを目的に、毎年行われています。参加した児童・生徒は、集中力で静まり返った会場の中、上の句が読み上げられると、札を素早く取り合い、歓声やため息が場内に響きわたっていました。

親子で「おひな様づくり」

山岡陶業文化センターで、1月25日、おひな様づくりの特別教室が行われました。桃の節句に手作りのおひな様を飾ろうと、25組の親子連れらがチャレンジしました。

個性あふれる作品の出来栄に、参加者は「手元に届くのが楽しみ」と、自分だけのおひな様の完成を心待ちにしていました。

作品は2月下旬頃に焼成（完成）し、参加者に渡される予定です。



▲楽しそうにおひな様づくりに取り組む参加者

おいしい給食召し上げれ

全国学校給食週間に合わせ、1月28日と29日、市学校給食センターで給食フェアが行われました。2日間で76人の市民が、施設の見学会と給食の試食会に参加しました。1日目の給食の献立は、子どもたちにも外国の食文化に触れてもらおうと、ブラジル料理が出されました。参加者の一人は「子どものことをよく考えた味付けで安心しました。いつもおいしい給食を作ってくれていることに感謝したいです」と話していました。



▲給食をおいしそうに味わう親子

楽しいカーリングに夢中



▲狙いを定めて、ストーンを投げる参加者

県クリスタルパーク恵那スケート場で、1月24日、カーリング教室が開催されました。教室には、市内外から8人の参加がありました。

講師は、日本を代表するカーリングチーム「チーム長野」の選手と、長野県カーリング協会の皆さんが務め、競技の基本からゲームまで、熱心に指導していました。参加者の一人は「ゲームの組み立てなど、奥が深い競技」と話し、カーリングに夢中になっていました。

重伝建地区を火災から守る



▲岩村郵便局付近で一斉放水をする消防団

毎年1月26日の文化財防火デーを前に、重要伝統的建造物群保存地区の岩村本通りで、1月24日の早朝、大規模火災を想定した訓練が行われました。訓練は、地区内の自治会や市消防団岩村分団、岩村消防署が合同で実施。この日は寒風の吹く中、各自治会の消火栓隊の訓練や、消防団と消防署の連携による放水訓練など、総勢約200人が「自分たちのまちは、自分たちで守る」と、寒さも忘れて真剣に取り組んでいました。

防犯まちづくり講演会

市防犯まちづくり連絡協議会（大井守男会長）が主催した「防犯まちづくり講演会」が2月13日、市共同福祉会館で開催され、約150人が参加しました。講師に迎えた日本女子大学人間社会学部教育学科教授の清永賢二氏は、「市民・自治体・警察がスクラムを組んだまちづくりを進めなければならないこと。一人一人の意識づくりと隣近所のつながりの大切さは何よりも防犯につながる」と話し、参加者はうなずきながら防犯意識を高めました。



▲防犯とまちづくりについて講演する清永賢二氏

高校生が児童に読み聞かせ

明智小学校では読書指導の一環として、PTA母親委員会主催の読み聞かせを行っています。この取り組みに、今回初めて恵那南高校の生徒が参加することとなり、2月19日に同校で「朝の読み聞かせ交流会」として開催されました。今回参加したのは、恵那南高校総合学科福祉系列2年生24人（男子10人、女子14人）。生徒が全11クラスに分かれて入り、それぞれ選んで持ち寄った絵本を披露。児童らは真剣な表情で物語に聞き入っていました。



▲児童に読み聞かせを行う生徒たち

スリランカで再び活躍を



▲可知市長と握手をするラル・ティラカラタネ氏

恵那ロータリークラブ（近松英喜会長）を通じて、スリランカへ救急車を贈る贈呈式が、2月9日、完成間近の市消防防災センター前で行われました。贈呈した救急車は、国保上矢作病院で17年目を迎え、その役目が終わったもの。これを恵那ロータリークラブが譲り受け、スリランカへの国際協力活動として輸送援助を行います。現地には、3月15日に到着予定で、スリランカ国立病院の救急車として、再び走り始めます。

城下町のひなまつり



▲土佐屋に展示された江戸期のひな人形

岩村町の本通りで、第7回いわむら城下町のひなまつりが開催されています。展示されているひな人形は、江戸期から代々伝わる由緒あるものや、岩村藩主邸にまつわる古今びな、天保年間につくられた御殿びななど、さまざまな趣のある人形ばかりです。訪れた観光客は、歴史あるひな人形を見て回りながら、城下町を楽しんでいました。このひな人形は、4月3日まで同町本通りの約70カ所で開催されています。

「広重の富士」



歌川広重
「富士三十六景 上総黒戸の浦」
1858(安政5)年

広重が富士を描いたシリーズ「富士三十六景」を全点そろいで展示しています。

広重は生涯に2度、上総を旅しています。実際の風景を見た経験からか、本図に描かれる水平線は丸みを帯びています。

4月5日は「市民の日」

毎月第1日曜日を「市民の日」とし、観覧料を無料とします。気軽に美術の世界に触れていただき、美術を中心とする文化活動やまちづくり活動の拠点に活用いただけるよう願っています。

中山道広重美術館
企画展覧会

■会期 4/5(日)まで

■開館時間 午前9時半
～午後5時(入館は午後4時半まで)

■観覧料 ▷大人=500円
(団体400円) ▷小・中・高校生=300円(団体240円)
※小・中・高校生は、春休み期間中観覧無料
毎週月曜日(祝日を除く)、
祝日の翌日(土日・祝日を除く)休館。

■問い合わせ 中山道広重美術館 ☎20-0522

文化財を巡る ⑨古代の恵那～二つの古代寺院(その3)

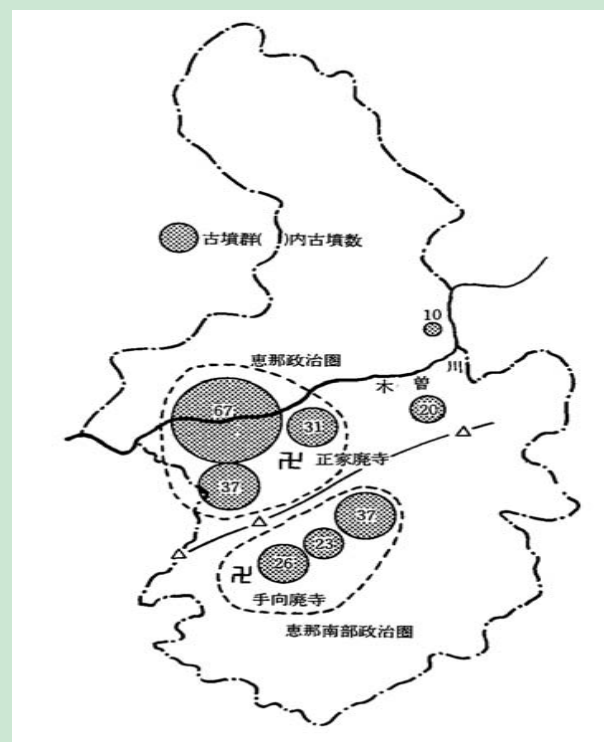
恵那地方の二つの政治圏

通説の恵那六郷の位置に対して、『恵那市史 通史編第1巻』では、古代の遺跡が非常に少ない恵那郡北部や木曾に絵下郷、絵上郷の二つの郷を当てる一方で、恵那郡全体の古墳の過半数が集中する恵那市周辺に竹折郷一郷のみを当てるのは矛盾しているのではないかと疑問を投げ掛けています。そして、絵下郷と絵上郷は恵那郷が分割されたもので、恵那市長島町から中津川市の市街地にかけての地域にあたるのではないかとしました。奈良県明日香村の飛鳥池遺跡で出土した木簡(荷札)から、7世紀後半には恵那郡はなく、土岐郡の一部として恵那郷があったことが分かりましたが、郡の名前にもなった当時の中心地は、まさにこの地域だったのではないのでしょうか。

恵那地方には、古墳分布の中心が二つあります。恵那市長島町を中心とした地域(竹折郷・絵下郷?)と、恵那市南部の阿木(安岐郷)、岩村、山岡(淡気郷)地域です。この二つの古墳分布圏には、奈良時代に入ると前者には正家廃寺、後者には手向廃寺という古代寺院がそれぞれ建立されることから、古墳時代から奈良時代にかけて、恵那地方には二つの政治圏が存在し

たと考えられます。

□問い合わせ 文化課 ☎43-2112 (内線217)



▲恵那地方の二つの政治圏 『恵那市史 通史編第1巻』より